

天王山・淀川 歴史と文化 うるおいのあるまち

広報

おおやまさき

8

2010(平成22)年

「やあ、登るぞー!」

天王山に登る町立第2保育所の子どもたち。10ページに関連

今月の主な内容

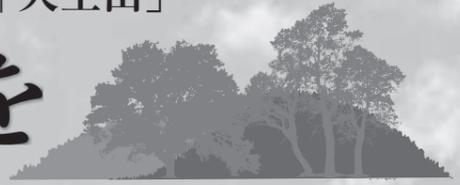
- 特集 心に森に潤いをー里山「天王山」ー P2
- 町長・町議会議員選挙の
日程が決まりました P16
- 第22回 参議院議員通常選挙
お知らせします。投開票結果 P16
- 第21回 仲秋の名月鑑賞会
ミニコンサート出演者と灯りアート作品を募集 P17
- ヒブワクチン接種費用を助成 P17

vol.511

<http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp>

心に森に鳥 潤いを

— 里山「天王山」 —



目に眩しい木漏れ日、芳しい木々の香り、頬を撫でる風…
緑豊かな天王山に一步足を踏み入れると、
そこには癒しの空間が広がっています。

しかし、そんな豊かな森も、
人の手によって守り、育てられていることを知っていますか？
森林は、放置されると木々が密生し、光が差し込まない暗い森となり、
生態系はその多様性を失っていきます。

ハイキングで健康づくり、カメラ片手に自然観察！。
楽しみ方は人によって異なるものの、
私たちが天王山に親しむことができるのは、
それを守る人々の力があってこそ。

森を守る人がいて、森に親しむ人がいる。

私たちの里山「天王山」は、
今日も変わらず大山崎町を抱くようにそびえています。

P04-09	Regeneration 森を再生する
	Close up それぞれの取り組み
P10-11	Closeness 森に親しむ
P12-13	Subject 「継続」が今後の課題
P14-15	Future 私たちの里山「天王山」の明るい未来のために



5月15日国の森林ボランティア行事には総勢151人が参加。不要竹の伐採作業などに汗を流しました
①大山崎町に引越してまだ3年という足立さんは夫婦で参加。普段から散歩などで天王山に登ることも多いそうです
②整備作業を終えたばかりの竹林をバックに、参加者全員で記念撮影



森林を再生する

本来の多様な植生を失いつつある私たちの里山。そんな状況を憂い、森に潤いを取り戻そうと頑張る人たちがいます。さまざまな立場の人や団体が、知恵を出し合って進める天王山の森を再生する取り組み。その概要を紹介します。

天王山を守るために 発足した「天王山周辺 森林整備推進協議会」

平成17年3月3日、孟宗竹の侵食や、放置竹林の増加、松枯れなどで荒れた天王山周辺の森林を整備するために立ちあがった「天王山周辺森林整備推進協議会」。京都府、

大阪府、大山崎町、島本町が事務局として広域的に連携し、森林所有者や企業、ボランティア団体などの代表20人がメンバーに名を連ねます。整備対象は、大山崎町と島本町にまたがる天王山周辺の森林約250ヘクタール（大山崎町域は約160ヘクタール）もの広大な範囲です。

平成17年10月には、平成27年を目標年とする「天王山周辺森林整備構想」を策定。整備目標には「豊かな水源の森」と「歴史と文化の里山林」を掲げています。森林の公益的な機能を維持・改善するとともに、歴史や文化の宿る美しい里山景観の創造を目指しています。



天王山の森に足を踏み入れると、風で葉がこすれる音、鳥のさえずり、雨水の流れる音などが心地よく耳に響きます

天王山周辺森林整備推進協議会 構成メンバー

- ▼京都大学▼大阪府立大学▼大山崎区▼山崎自治会（島本町）▼離宮八幡宮▼酒解神社▼椎尾神社▼サントリーホールディングス株式会社▼KDDI株式会社▼京都府森林組合連合会▼大阪府森林組合▼大山崎竹林ボランティア▼天王山をまもる会▼桂川流域ネットワーク▼勲大阪みどりのトラスト協会▼島本森のクラブ▼島本竹工房▼フォレスト島本▼京都府京都林務事務所▼大山崎町経済環境課▼大阪府北部農と緑の総合事務所▼島本町産業建設課ほか

※そのほか、取り組みに賛同する団体がワーキングチームを構成

森林の状態に応じた 整備目標を設定

昔から、人々は森の木々を建材や燃料に利用するなど、森とともに生きてきました。そうすることで、森は自然と整備され、明るく美しい景観を保ってきました。しかし、近年ではそういった人と森とのつながりは希薄になり、森は少しずつ荒れた姿に変わっていききました。

一言で荒れた森林と聞いても、実情はさまざま。天王山周辺には、竹林や雑木林、針葉樹林などさまざまな植生の森が存在しており、それぞれに異なる対策が求められています。荒れた竹林は、間引いて光の入る明るい竹林に。竹

が侵食しつつある森林は、竹を全伐して自然の状態の森を守る。雑木林は、常緑樹を中心に間引いて多様な植生を維持する。針葉樹林は、弱った木や密生した木を間引いて、森を健康に保つ。

全国的にも珍しい 「協議会」体制での 森林整備

天王山周辺森林整備の取り組みは、全国的にも珍しいシステムで進められています。日本全国ほとんどの森林では、森林所有者と企業が直接契約を結び、企業が単独で森

林整備に取り組んでいます。しかし、天王山周辺森林整備においては、企業も協議会を構成する一メンバー。地元を含むさまざまな人の思いが反映されるような体制が確立されています。実際にこれまでの森林整備においては、水源涵養など森の機能面だけでなく、景観改善や眺望確保など、観光の視点に立った整備にも力を入れてきました。

小さな大山崎町の、1/3もの面積を占める天王山。この山を積極的に活用し、親しんでいかない手はありません。美しい里山「天王山」を取り戻すための取り組みは、まだ始まったばかりです。